

New Crown 第3回 Lessons

Lesson 3-1: be 動詞の疑問文① (I / you / we / they)

ここでは、be 動詞の疑問文について学んでいきます。be 動詞の疑問文は、be 動詞の肯定文をしっかりと作ることができれば非常に簡単。なぜなら、肯定文の be 動詞を文頭に持ってくれば完成となるからです。

【be 動詞の疑問文：基本的な形】

be 動詞 + 主語 + ～？

「主語は～ですか」

<例> Are you a student? あなたは生徒ですか。
Are they English teachers? 彼らは英語の先生ですか。

【ポイント！】

be good at / be interested in などにも **not** を入れられます！

be good at ～（～が得意）や be interested in ～（～に興味がある）という文も疑問文にする場合は、be 動詞を先頭に持ってくれば OK です！

<例> Are you good at basketball? (あなたはバスケが得意なのですか)
Are they interested in playing sports? (彼らはスポーツをするのには興味があるのですか)

【be 動詞の疑問文の作り方】

ステップ 1: be 動詞の「肯定文」を作る。

ステップ 2: be 動詞を文頭に持ってきて、最後を？にする。

<例 1: あなたは生徒ですか>

ステップ 1: be 動詞の肯定文を作る。

→ あなたは生徒です。

_____ You are a student. _____

ステップ 2: be 動詞を文頭に持ってきて、最後を？にする。

→ あなたは生徒です。

_____ Are you a student? _____

<例 2: 彼らは英語の先生ですか>

ステップ 1 : be 動詞の肯定文を作る。

→ 彼らは英語の先生です。

They are English teachers.

ステップ 2 : be 動詞を文頭に持ってきて、最後を?にする。

→ あなたは生徒です。

Are they English teachers?

【be 動詞の疑問文 : 答え方】

答え方は、基本的に Yes / No の 2 種類。 (注意 : ここでいう代名詞は、I / you / we / they)

Yes, 代名詞 be 動詞 .

代名詞と be 動詞を短縮させることも可能。
<例> No, I'm not. No, you're not. など

No, 代名詞 be 動詞 not .

is / are で答える時は、be 動詞と not を短縮させた形を使うのが一般的。
<例> No, you aren't. など (amn't = × (存在しない))

<例 1> Are you a student?

はい → Yes, *I am.

いいえ → No, *I am not. / No, I'm not.

* Are you ~? (あなたは~?) という疑問文では、答える時に I (私は) を使うので注意。この質問をさ
れている状況を想像するのが大事。

<例 2> Are they English teachers?

はい → Yes, they are.

いいえ → No, they aren't. / No, they're not. / No, they are not.

Lesson 3-2: 一般動詞の疑問文 ① (I / you / we / they)

ここでは、一般動詞の疑問文について学んでいきます！基本的に一般動詞の肯定文が理解できて
いれば、何も問題ないと思いますが、ポイントとなるのは、文頭で使われる Do という単語。こち
らは、「する」という意味ではないので要注意です。

【一般動詞の疑問文（現在形①） < I / you / we / they > : 基本の形】

I
*Do + you + 一般動詞（+目的語）（+～）？
we
they

*疑問文の先頭にある Do は「する」という意味の do とは違うので注意。

- <例> **Do** you study English every day? (あなたは毎日英語を勉強するのですか)
Do they drink coffee? (彼らはコーヒーを飲むのですか)

【一般動詞の疑問文①：作り方】

ステップ①：一般動詞の「肯定文」を作る。

ステップ②：文頭に **Do** を足し、最後を **?** にする。

<例 1: あなたは毎日英語を勉強するのですか>

ステップ 1：一般動詞の「肯定文」を作る。

→ あなたは毎日英語を勉強します。

 You study English every day.

ステップ②：文頭に **Do** を足し、最後を **?** にする

 Do you study English every day?

<例 2: 彼らはコーヒーを飲むのですか>

ステップ①：一般動詞の「肯定文」を作る。

→ 彼らはコーヒーを飲みます。

 They drink coffee.

ステップ②：文頭に **Do** を足し、最後を **?** にする

 Do they drink coffee?

【疑問文の答え方】

答え方は、基本的に Yes / No の2種類。Yes. や No. と一言だけでも大丈夫な場合が多いですが、しっかりと答える場合は、以下のように「代名詞」や「do / don't (do not)」を入れる必要があります。

Yes, 代名詞 do.

No, 代名詞 *don't.

* don't 使うのが一般的だが、do not と分けることも可。

Do ~? で聞かれているので、do で答える。be 動詞で答えないように注意。

Q: Do you like coffee?

A: Yes, I am. =×

<例1>

Do you study English every day?

はい → **Yes, *I do.**

いいえ → **No, *I don't. / No, I do not.**

* **Do you ~? (あなたは~?)** という疑問文では、答える時に **I (私は)** を使うので注意。この質問をされている状況を想像するのが大事。

<例2>

Do they drink coffee?

はい → **Yes, they do.**

いいえ → **No, they don't. / No, they do not.**

【ポイント！】

疑問文で登場する「何か〇〇」「いくつか〇〇」という意味の any

「あなたは、何かスポーツをしますか?」「あなたはいくつか黒いバッグを持っていますか?」といった文章で登場する「何か」「いくつかの」というのは、any を使って表します (any は、基本的に名詞の前に置かれます)。

<例> Do you play any sports? (あなたは、何かスポーツをしますか?)

Do you have any black bags? (あなたは、いくつか黒いカバンを持っているのですか?)

【ポイント！】

Do you know ~? は、個人的に面識がある時に使われる言い方なので注意!

「あなたは大谷翔平選手を知っている?」という日本語文を Do you know Shohei Ohtani? とすると大谷翔平選手と「面識がある(友だちである)」という意味で知っていますか? という意味になります。こういう場合は、Have you heard of Shohei Ohtani? (大谷翔平を聞いたことがありますか?) という表現が使われますので、注意してください!

<参考ウェブサイト> [英語イメージリンク](#) [Hapa Eikaiwa](#)

Lesson 3-3: 冠詞

冠詞とは、a/an/the といったものです。もうすでに、a/an については使い方を理解していると思いますが、the については“play the 楽器”“practice the 楽器”でしか登場していないので、ここでは「the と a/an の違い」を確認しながら「the の使い方」について学んでいこうと思います。

【a/an の特徴】

(1) 不定冠詞（特定の物を指さない冠詞）

(2) 基本的に可算名詞（単数形）につく

<例> I have **a** new computer. （私は新しいパソコンを **1** 台 持っています）

（特定されている新しいパソコンではなく「ある新しいパソコンを 1 台持っている」という意味）

I have **an** old car. （私は古い車を **1** 台 持っています）

（特定されている古い車ではなく、「ある古い車を 1 台持っている」という意味）

(3) a/an の代わりに one が使えることが多い

<例> I want **one** new computer. （私は新しいパソコンを **1** 台 持っています）

I have **one** old car. （私は古い車を **1** 台 持っています）

【the の特徴】

(1) 定冠詞（文の流れや状況から、何の名詞について話しているのか特定されている時に使う 共通認識を表す）

(2) 可算名詞（単数形・複数形）だけでなく、不可算名詞にもつく

(3) 日本語では「その」と訳されることが多い

<例> I have **the** new computer. （私は、**その**新しいパソコンを持っています）

（会話をしている人たちの間では「どの新しいパソコンか」理解されている）

I have **the** old car. （私は、**その**古い車を持っています）

（会話をしている人たちの間では、「どの古い車か」理解されている）

(4) 一度登場した「(a+) 名詞」は、それ以降は「the+ 名詞」で使われる（どの名詞について話しているか限定されるため）

<例> I have a computer. **The** computer is very small.

（私は、1 台のパソコンを持っています。**その**パソコンはとても小さいです）

(5) 「ただ 1 しかない（と考えられている）」もの

<例> 太陽 = **the** sun **The** sun is big. （太陽は大きいです）

世界 = **the** world I want to change **the** world. （私は世界を変えたいです）

(6) 名詞の一部になっているもの

<例> アメリカ合衆国 = **the** United States (of America) 太平洋 = **the** Pacific (Ocean)

(7) フレーズとして覚えた方がよいもの

<例> 午前 = in **the** morning 午後 = in **the** afternoon

夕方に = in **the** evening （ただし「夜に」は at night が一般的）

楽器を演奏する = play **the** 楽器

(日本の) ○○地方 = **the** ○○ area / region <例> **the** Kanto *area (関東地方)

*area / region = 地方 / 地域

【ポイント！】

the が入らないフレーズ

go to school (学校に行く) のような決まったフレーズの場合、本来であれば **the** や 所有格が入りそうな場面でも、入らないことがありますので、注意してください。

<例> I go to school. (私は学校に行きます)

<「自分が通っている学校」なので、the school / my school となってもおかしくないのだが、go to school は決まったフレーズのため、the や所有格はつかない>

【the を理解するポイント】

the を理解するために必要なポイント、文章がどのような状況で使われているのか想像することです。例えば、以下の文。

I *want to go to **the gym**. (私は体育館に行きたいです)

want to ~ = ~したい

この文章では、"a gym" よりも "the gym" が使われることが多いです。なぜなら、話をしている当事者の間では「どの体育館」なのか限定されていることが多いからです。例えば会話の中で「バスケットをしたいから、体育館に行きたいです」といった文が登場した場合、お互い『どの体育館について話をしている (おそらくいつもバスケットをする体育館)』か、理解していると考えるのが自然ですよ？そのため、**the gym** がよく使われます。他にも、

I am in **the baseball club**. (学校の部活動としての「野球部」を指す場合)

といった例もあげられます。同様の理由で **supermarket** (スーパー) / **bank** (銀行) / **library** (図書館) なども、(毎回ではありませんが) 冠詞に **the** が使われることが多いです。

I want to go to **the supermarket**. → 「いつも買い物に行くスーパー」という意味。

I want to go to **the bank**. → 「自分の口座がある銀行」という意味。

I want to go to **the library**. → 「学校の図書館」「いつも行く図書館」という意味。

このように、**the** の使い方を理解するポイントは、「この文章はいったいどのような状況で使われているのかな？」と想像することです。練習でも「どのような状況で使われているのか？」を想像しながら問題を解いていきましょう！

【ポイント！】

なぜ play the 楽器 / practice the 楽器となるの？

この the には、いろいろな説があるのですが、代表的なものとして、自分が弾く・練習に使う楽器はある程度特定されているからというのがあります。例えば「私はピアノを弾きます」という文で登場するピアノは、おそらく自分のピアノ、ピアノ教室にあるピアノ、あるいはコンサート会場にあるピアノなどある程度限定されています。そのため、the がつくと考えられます。

余談ですが「(1台の) ピアノを作る」という場合、一般的には make a piano となり the は使われません。これは「ある1台のピアノを作る」というように限定されないからと考えられます。

Lesson 3-4: be 動詞の否定文① (I / you / we / they)

be 動詞の否定文の作り方は、be 動詞の肯定文が作ることができれば非常に簡単。なぜなら、be 動詞の肯定文を作り、be 動詞の後に not を足してあげれば完成だからです。

【be 動詞の否定文：基本的な形】

主語 + be 動詞 + not + ○○.

「主語は○○ではありません」

(are not は、aren't と短縮させることができる)

<例> I am not a teacher. 私は先生ではありません。(I amn't a teacher. = ×)

We are not (aren't) students. 私たちは、生徒ではありません。

【be 動詞の否定文の作り方】

ステップ1: be 動詞の「肯定文」を作る。

ステップ2: be 動詞の後に not を足す。(be 動詞と not を短縮させることも可)

<例1: 私は先生ではありません>

ステップ1: be 動詞の「肯定文」を作る。

→ 私は先生です。

_____ I am a teacher.

ステップ2: be 動詞の後に not を足す。

_____ I am not a teacher. (I'm not a teacher. も可)

<例2：私たちは生徒ではありません>

ステップ1：be 動詞の「肯定文」を作る。

→ 私たちは生徒です。

_____ We are students. _____

ステップ2：be 動詞の後に not を足す。(be 動詞と not を短縮させることも可)

_____ We are **not** students. _____ (We're not students. / We're not students. も可)

【ポイント！】

be good at / be interested in などにも not を入れられます！

be good at ~ (～が得意) や be interested in ~ (～に興味がある) という文も否定形にする際は、be 動詞の後に not を入れてあげれば OK です！

<例> I am not good at soccer. (私はサッカーが得意ではないです)

They are not interested in playing sports. (彼らはスポーツをするのには興味がないです)

Lesson 3-5: 一般動詞の否定文① (I / you / we / they)

一般動詞の否定文は、一般動詞の肯定文を作ることができれば、簡単に作れます。なぜなら、一般動詞の肯定文を作り、一般動詞の前に do not あるいは don't を入れれば完成だからです。

【一般動詞の否定文①< I / you / we / they > : 基本の形】

主語 + do not (*don't) + 一般動詞 (+目的語) (+～) .

* don't は、do not を短縮した形。

<例> I do not (don't) like soccer. (私はサッカーが好きではないです)

You do not (don't) need your textbook (あなたはあなたの教科書が必要ないです)

They do not (don't) live in Japan. (彼らは日本には住んでいません)

【一般動詞の否定文①：作り方】

ステップ1：一般動詞の「肯定文」を作る。

ステップ2：主語と一般動詞の間に do not (または、don't) を入れる。

<例1：私はサッカーが好きではありません>

ステップ1：一般動詞の「肯定文」を作る。

→ 私はサッカーが好きです。

I like soccer.

ステップ2：主語と一般動詞の間に do not (または、don't) を入れる。

I do not (don't) like soccer.

<例2：彼らは日本には住んでいません>

ステップ1：一般動詞の「肯定文」を作る。

→ 彼らは日本に住んでいます。

They live in Japan.

ステップ2：主語と一般動詞の間に do not (または、don't) を入れる。

They do not (don't) live in Japan.

Lesson 3-6: 代名詞の格

英語の場合、同じ代名詞でも使われる場所（主語・目的語）によって形が変化します。例えば、以下の文。日本語の文では同じ『彼ら』という言葉ですが、英語では使われる単語が異なります。

<例> 彼らは学校に行きます。（彼ら=主語として使われている）

エミは彼らが好きです。（彼ら=目的語として使われている）

今回は「主格」「所有格」「目的格」について学んでいくのですが、もうすでに「主格」と「所有格」は練習でも登場しているので、すぐに理解できるでしょう。そのため、ここでのポイントは「目的格」をしっかり理解することです！

- 1. 主格 （「私は～」 「彼は～」 など主語になる形）
- 2. 所有格 （「私の～」 「彼の～」 のように、誰かの所有を表す形）
- 3. 目的格 （「私を～」 「彼に～」 のように、動詞の対象となる形）

【代名詞の格と所有代名詞：リスト】

主格 <～は・～が>	所有格 <～の>	目的格 <～を・～に>
I <私は>	my <私の>	me <私を・私に>
you <あなた(たち)は>	your <あなた(たち)の>	you <あなた(たち)を・あなた(たち)に>

主格 〈～は・～が〉	所有格 〈～の〉	目的格 〈～を・～に〉
he 〈彼は〉	his 〈彼の〉	him 〈彼を・彼に〉
she 〈彼女は〉	her 〈彼女の〉	her 〈彼女を・彼女に〉
we 〈私たちは〉	our 〈私たちの〉	us 〈私たちを・私たちに〉
they 〈彼(女)らは〉 〈それらは〉	their 〈彼(女)らの〉 〈それらの〉	them 〈彼(女)らを・彼(女)らに〉 〈それらを・それらに〉
it 〈それは〉	its 〈その〉	it 〈それを・それに〉

【代名詞以外の場合】

Jim 〈ジムは〉	Jim's 〈ジムの〉	Jim 〈ジムを・ジムに〉
*my mother 〈母は〉	my mother's 〈母の〉	my mother 〈母を・母に〉

* 「父 / 母」など家族のことをいう場合、「誰の父」「誰の母」など限定されている際は、基本的に所有格をつける。同様に「腕 / 足」といった体の一部や「宿題」をいう場合も「誰の体の一部」「誰の宿題」が限定されている場合は、所有格をつける。

【使い方】

1. 主格 = 「私は」「あなたが」など、文の主語になる形。

〈例〉 私は、野球をします。 = **I** play baseball.
 彼らは、私の生徒たちです。 = **They** are my students.

2. 所有格 = 「私の」「あなたの」など、誰かの所有を表す形。

〈例〉 私は、私の教科書を持っていません。 = I don't have **my** textbook.
 彼の車(たち)は、新しいです。 = **His** cars are new.

3. 目的格 = 「私を」「あなたに」など動詞の対象となる形。

〈例〉 私は彼を教えています。 = I teach **him**. <「教える(動詞)」の対象 → 彼>
 私たちは、それを毎日します。 = We do **it** every day. <「する(動詞)」の対象 → それ>